

平成 17 年度

百里飛行場民間共用化事業に係る

事後調査等の結果の概要

平成 19 年 3 月

国土交通省関東地方整備局
鹿島港湾・空港整備事務所

1. 事後調査等の目的と背景

「事後調査」は、百里飛行場民間共用化事業における工事の実施及び飛行場の存在が周辺環境に及ぼす影響を把握することを目的として実施するものです。調査結果を踏まえ、必要に応じて適切な環境保全対策をとるなどの方法により、事業実施による環境への悪影響を未然に防止できるとともに、周辺環境の保全が図られることとなります。

ここでは、平成 16 年 12 月に公告・縦覧された環境影響評価書にしたがい、専門家の参画する「百里飛行場環境対策技術検討会」（以下、「検討会」と略す。）の指導・助言を得て、平成 17 年度に実施した事後調査の結果を公表します。

また、鹿島港湾・空港整備事務所では、工事の実施等により、環境影響が極めて小さい、もしくはないと想定される項目についても、環境影響の有無を確認するために、検討会の指導・助言を得ながら「環境監視」を実施しています。ここでは、平成 17 年度に実施した「環境監視」の結果もあわせて公表します。

2. 平成 17 年度の工事の実施状況

平成 17 度は、平成 17 年 12 月から雨水調整池（北側）において止水矢板の打設を実施しました。また、関連工事として、小美玉市（当時、小川町）による基地正門近くの市道付替工事が行われました。



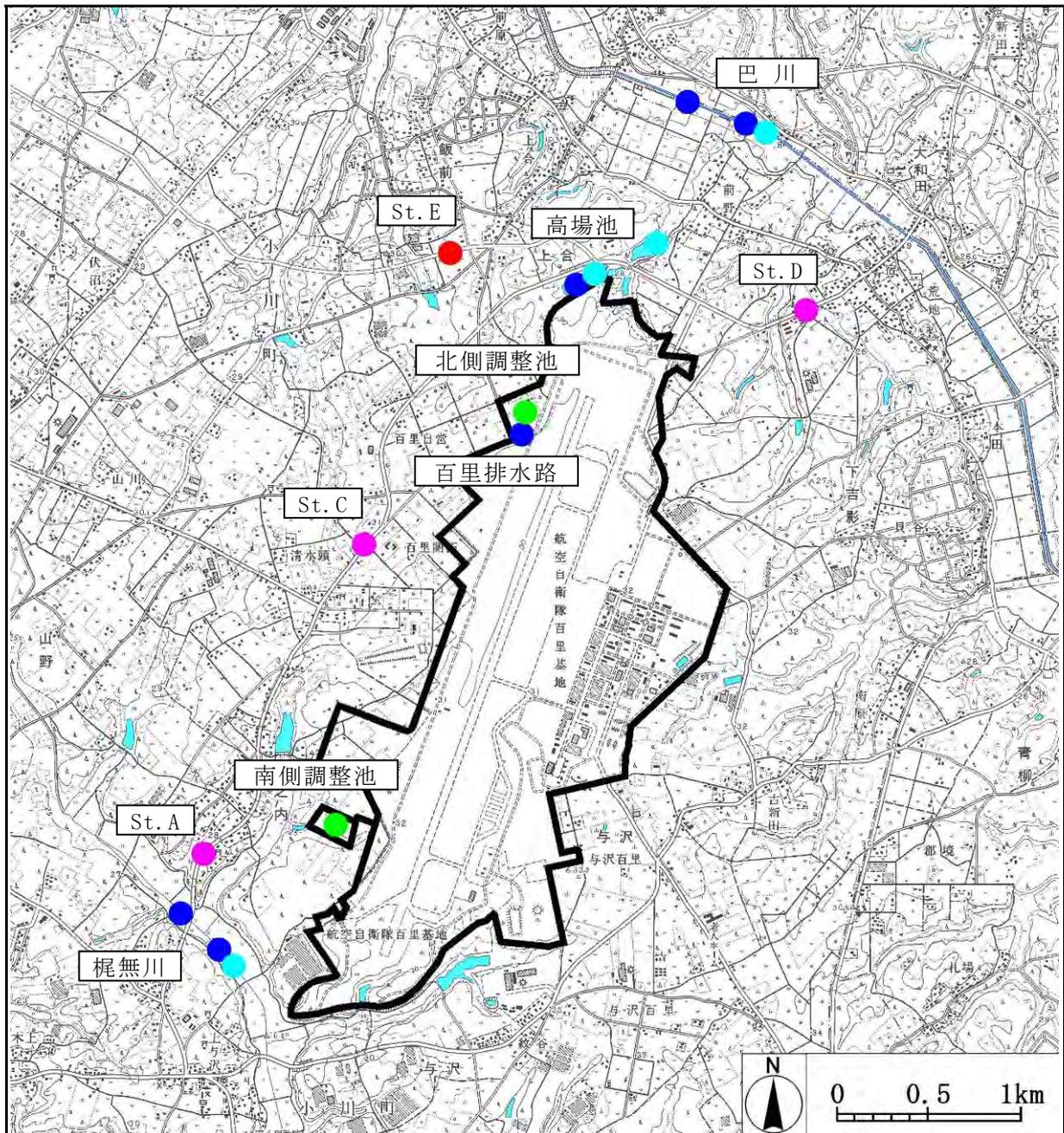
【止水矢板打設の実施状況】

3. 事後調査及び環境監視の概要

平成 17 年度に実施した事後調査及び環境監視の概要及び調査位置は、以下のとおりです。

【事後調査及び環境監視の概要】

調査の位置付け	調査方法	調査項目		備考
事後調査	現地調査	騒音	道路交通騒音 (St. E)	
環境監視	現地調査	騒音	道路交通騒音	
		騒音・振動	建設作業騒音・振動	オオタカの繁殖状況に関する工事による影響の指標として実施
		水質	SS 等 (降雨時調査)	降雨時の仮設濁水処理施設、雨水調整池、周辺水域の濁りを対象に調査
			環境基準項目 (晴天時調査)	雨水調整池の放流先における晴天時の状況を調査
		地下水	地下水位	
動物	オオタカ繁殖状況			



< 凡 例 >

- 事後調査 ● : 道路交通騒音 (St. E)
- 環境監視 ● : 道路交通騒音
- : 水質 (SS 等、降雨時調査)
- : 水質 (環境基準項目、晴天時調査)
- : 地下水

注) 建設作業騒音・振動及びオオタカ繁殖状況の調査位置は、オオタカ保護の観点から図示することを差し控えています。

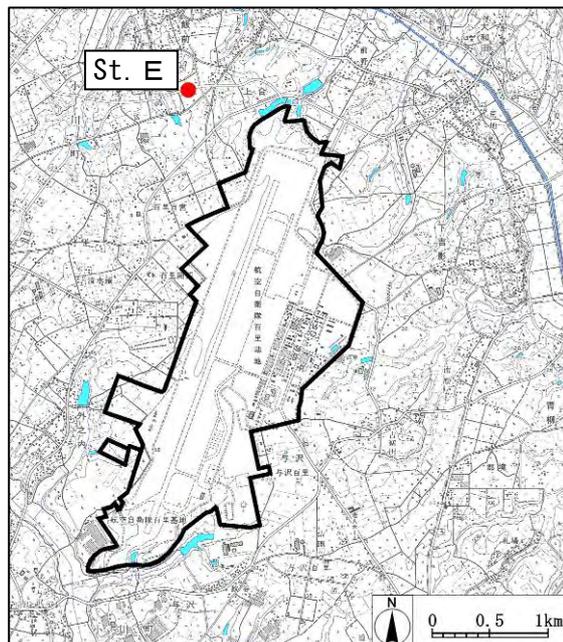
【事後調査及び環境監視の現地調査位置 (平成 17 年度)】

4. 事後調査の結果の概要

○道路交通騒音

(1) 調査の内容

工事関係車両の走行ルート沿道（市道：通称メロンロード）St.Eにおいて、道路交通騒音及び交通量の状況を把握するため、平成18年3月17日及び22日の2日間、調査を行いました。



【事後調査（道路交通騒音）の調査位置】

(2) 調査結果の概要

平成17年度の調査時には工事関係車両がSt.Eを通行しなかったため、工事影響についての評価は行わず、現況把握という位置付けの調査となりました。

調査の結果、St.Eにおける等価騒音レベルは69～70dBであり、両日とも環境基準値を上回っていました。また、このときの交通量（一般車両の交通量）は約3,800台/12時間でした。

【St.Eにおける事後調査（道路交通騒音）結果】

調査時期	調査結果 (等価騒音レベル)	調査時の交通量	環境基準
平成18年3月17日(金) 7:00～19:00	70dB	3,796台/12時間	65dB以下
平成18年3月22日(木) 7:00～19:00	69dB	3,799台/12時間	

なお、平成18年度以降は工事関係車両がSt.Eを通行する予定であることから、今年度と同様の調査を行うと共に、工事の実施により道路交通騒音が工事前と比べて著しく増加していないかどうかを確認することにより、調査結果の評価を行っていきます。

5. 環境監視の結果の概要

○道路交通騒音

工事関係車両の走行ルート沿道（県道：大和田桃浦停車場線）の3地点において、平成18年1月・2月に調査を行った結果、いずれの調査地点においても騒音レベルは環境基準値を下回っていました。

○建設作業騒音・振動

事業実施区域周囲に生息するオオタカの繁殖状況に関する工事による影響を把握する指標として、建設機械の稼働に伴う建設作業騒音・振動の調査を行いました。

調査は、オオタカの繁殖初期にあたる平成18年1月・2月に行いました。

なお、平成17年度に実施した工事は、北側調整池整備のための止水鋼矢板の打設や基地正門近くの市道付替工事であり、騒音・振動の発生源となる主な建設機械は、杭打ち機とロードローラーでした。

調査の結果、建設作業騒音・振動ともに、工事の敷地境界線付近で規制基準を満足していました。

工事区域からオオタカの営巣地までは数百m離れていることから、騒音・振動はさらに減衰すると考えられますが、今後とも、オオタカの繁殖行動に影響を及ぼさないように建設作業騒音・振動に配慮して工事を進めていきます。

○水質（SS等、降雨時調査）

降雨時に工事区域内から発生する濁水は、仮設濁水処理施設及び調整池において処理した後、高場池や巴川、梶無川などの事業用地周辺水域に放流する予定であり、降雨時の水質調査では、仮設濁水処理施設及び調整池の処理水と、放流先河川の水質（濁りの指標となるSS：浮遊物質）を確認することとしています。

平成17年度の調査時には、工事区域内で濁水が発生するような工事は行われておらず、仮設濁水処理施設及び調整池は来年度以降に整備する予定であることから、今年度は事前の現況把握という位置付けで、放流先となる事業実施区域周辺水域において調査を行いました。

平成17年7月の調査結果、巴川・梶無川の放流先上流側におけるSSは、それぞれ19～422mg/Lでした。

なお、仮設濁水処理施設及び調整池では、工事区域内から発生する濁水のSS濃度をできるだけ低下させる（目標水質：SS 25mg/L）ことにより放流先の河川等の水質保全を図る観点から、設計降雨量を10mm/hとしています。

仮設濁水処理施設及び調整池の整備後に行う調査では、仮設濁水処理施設の処理能力が計画どおり発揮されていることや、放流先となる事業実施区域周辺水域の水質が放流水の影響により顕著に悪化していないことを確認することにより、調査結果の評価を行っていきます。

○水質（環境基準項目、晴天時調査）

晴天時の水質調査では、調整池からの処理水が放流される事業実施区域周辺水域における水質（COD(化学的酸素要求量)等の環境基準が定められている項目）を確認することとしていますが、調整池は来年度以降に整備する予定であることから、平成17年度は現況把握という位置付けで、四季に調査を行いました。

巴川及び梶無川では大腸菌群数が環境基準（河川A類型）を超過しておりました。

仮設濁水処理施設及び調整池の整備後に行う調査では、放流先となる事業実施区域周辺水域の水質が放流水の影響により顕著に悪化していないことを確認することにより、調査結果の評価を行っていきます。

○地下水位

工事中における地下水への影響を把握するため、北側及び南側調整池整備予定地近傍の計4箇所の既設観測井において定期的に地下水位を観測しました。

今年度は平成17年12月から北側調整池において遮水工の施工が行われましたが、地下水位に大きな変化はみられませんでした。

今後も引き続き地下水位の観測を行い、地下水位に大きな変化がないことを確認することにより、調査結果の評価を行っていきます。

○オオタカ

事業実施区域周囲に生息する3組のオオタカつがいの繁殖に対する工事影響を把握するため、オオタカの繁殖期である1～7月に毎月観察調査を行い、各つがいの繁殖状況を確認することとしています。

平成17年の調査時（平成17年1～7月）は工事着工前でしたが、1つがいについては、営巣木において巣立ち直前の幼鳥が3個体確認されました。これに対して、他の2つがいについては、繁殖初期にはディスプレイ飛行を行うなど繁殖を示唆する行動がみられましたが、繁殖は確認されませんでした。

今後も引き続き各つがいの営巣状況、幼鳥の出現状況等の調査を行い、繁殖状況に大きな変化がないことを確認することにより、調査結果の評価を行っていきます。



【確認されたCつがいの幼鳥】

注) この写真は、平成17年7月13日に茨城県の調査により撮影されたものです。本調査においても6月28日の調査で巣立ち直前のこれらの幼鳥を確認しています。